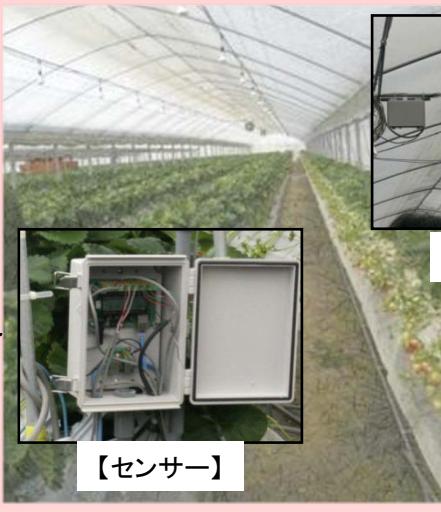


【株式会社アクトいちごファーム】(大分県)

システム概要

- ① ハウス内の環境(CO₂濃度、日射量、温湿度、土の肥料濃度等)を測定するセンサーを設置し、データを収集。
- ② 収集したデータはスマートフォンで隨時確認することができ、それを参考に窓の開閉や施肥量などを判断。
- ③ また、収集したデータは関係者(大学・試験場等)がWeb上で閲覧することができ、様々な角度から解析。



大学が自前で製作したセンサーを設置

【センサー】

【カメラ】

導入経緯・背景

- 大学や県の関係者からの働きかけにより、平成23年から試験的にITを導入。

導入者コメント(効果・課題等)

- 導入後、センサー等で収集した情報が効率的な栽培管理を行うための重要なヒントになることが分かってきた。
- 勘だけでなく、データからもフォローされるようになり、改善すべき点が明確化され、経費削減につながった。
- ほ場を見に行けない日でも不安が減った。
- 「データ」と「これまでの経験」を組み合わせて判断することが重要。
- 現在、ハウス間で生育結果に格差が生じているため、ハウス環境を分析し、生育結果の優れたハウスのレベルに合わせて環境を均一化したい。
- 一般の生産者では、収集したデータを解析する技術がないため、データを解析しアドバイスをくれる職業が生まれることを期待。
- 現在はほぼ1人でITの管理を行っているが、今後は社員全体で情報共有したい。
- 持ち運びできて、土に突き刺せるような移動可能なタイプのセンサーがあれば、より使いやすい。
- 多くの種類のデータを収集しても、費用対効果を考えると本当に必要な情報は限られてくる。